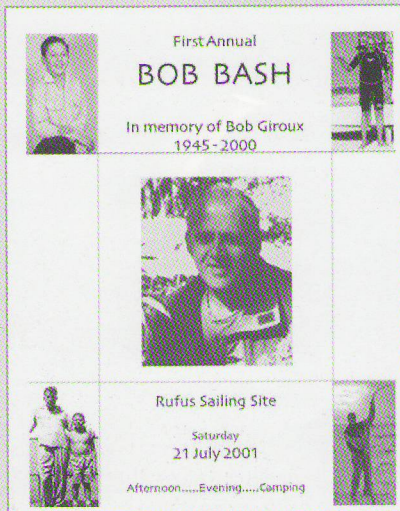


# 想 オレゴン



8月6日は私の最も近い友人のBOB GIROUXの一周忌。オレゴンの友人達からそのお誘いが来ていました。彼との出会いは1985年のマウイで、彼はいつもウインドサーフィンにきているカーペット屋さんでした。なんだかんだと世話焼きでやれ煙草はいらないか？このWARM ジェリーはうまいぞと（本当に虫の形のジェリーです）声を掛けてくれた。

当時単身でウインドサーフィンの練習に行った私は、世話を焼かれすぎて

閉口したこともありましたが当時稚拙だった私の英語でも聞いてもらえる人がいるのは嬉しいものでした。何年か過ぎて私がGORGE PRO AMという大会にエントリーしたときにBOBの本来の住所であるHOOD RIVERに葉書を出しておきました。あまり期待もせず。そうしたところHOOD RIVERに着いてEVENT SIGHTをうろうろしていた時に他の日本人選手に

“赤土さんを探している外人がいるよ”（私らが外人なんですけど）と聞かされ、こちらも探していたのですがビーチでは見つからず諦めて川に出ました。ウインドサーフィンをやっている人なら皆様ご存知のここは世界の強風地帯、ちなみに15日間で12日間3.5㎡のセールということもありました。これは練習しないとヤバイと必死で練習していたら、なんだかこちらに手を振るオヤジがいるじゃないですか！ 私もそれと気づき同時にジャイブしてビーチに戻り握手。久しぶりの再会でした。その後私は選手として、またビジネスマンとして彼の地に頻りに訪れBOBの家に居候し、しまいには彼と会社を設立しショップまで始めてしまいました。（グリーンカードが無くて自分がオーナーだったら現地法人を作れるって知ってました？）

そうこうしているうちに確か1995年ごろだと思うのですが、CELLILOカップと言う大会がありましてこれがひたすらダウンウインドのみの大会でなんと20km以上をかつとんでいくという大変な代物です。この大会のスタート方法がゲートスタートというスタート方法で、パスファインダーがポートタックで走るその後と本部艇の間で選手が次々スタートしていく訳です。このときのパスファインダーが今から思うとラムエアーのkiteに水上スキーの1本で乗るやつだったわけで彼はなんとスタートしたそのままkiteを操作して橋の下を潜り抜け（オレゴン州とワシントン州をつなぐ橋です）見えなくなってしまいました。私はと言うとCELLILOのワシントン側の細くて急流で風が強く近道の方を選び突っ込んだのですが、沈をして押し戻され又トライしましたが諦めてオレゴン側の広くて風が弱く遠い方へ回り直し、再トライしたのですが前に吹き飛ばされスケグで四針縫う傷を追いセールも破ってあえ無くレスキューという羽目になってしまいました。その後車でスタート地点へ戻ったわけですが途中道路に這い上がってきているウインドサーファー達を発見して又びっくり結構川

岸は切り立っていたんですけど。

まあこれが私のはじめてのkiteとの出会いです。でもkiteサーフィンじゃなくてkiteウォータースキーですね。今から思うとこの時に始めていれば大変なことになっていたかもしれませんがそこはフラッシュとかと私の違いだったわけです。

その後もCHINOOKのオーナーがウインドで4.0㎡の風のときにkiteを取り出していたのを見たきりで（すぐにしまっていましたけど）kiteに触れる機会はありませんでした。

まさか自分がkiteを輸入して売り始めるなんてこの時には夢にも思わなかったのに、今一生懸命な練習している自分が不思議です。そう言えば先日CHINOOKのマネージャーと電話で雑談していたときに前回書いたFRAWBEE（ラインを巻き取れるバー）の話が出まして彼曰く“デモンストレーションに来ていて実演しているときに吹き飛ばされてフェンスに貼りついた”とのこと大笑いしてしまいました。もう少し様子を見たほうが良いようです。

さて再びオレゴンの話ですが先日SUBARU GORGE GAMES KITEBOARDINGが行われノーシードからJeff Tobias (SLING SHOT) 23歳、Will James (NAISH) 22歳、Mark Doyle (SLING SHOT) 18歳が、そして第5シードからAdam Koch (NAISH) 22歳の4名がファイナリストとなり年寄り達を食ってしまったようです。アメリカ全体についても言えるのですが、若い年代にチャンスを与えてあげよう、ボランティアをしようという習慣が大きく根付いているように思えます。亡くなったBOBにしても常に若い子達に機会を

あたえてやろうとしてましたし、HOOD RIVERのコミュニティにしても皆でスケートボードパークを作ったり、全てボランティアで川沿いのグレンデの岩をどかして土を入れウインドやkiteが入りできるようにしたりしています。やはりこんな環境だから若手が台頭してくるのかなと思います。

Mr.赤土の

quiet ocean

リザルトは次の通り

KITEBOARDING // MEN  
Adam Koch, Kitebeach, HI (NAISH)  
Mark Doyle, White Salmon, WA (SLING SHOT)  
Will James, Honolulu, HI (NAISH)  
Jeff Tobias, Kailua, HI (SLING SHOT)  
KITEBOARDING // WOMEN  
Sheldon Plentovich, Kailua, HI  
Julie Prochaska, Hailu, HI  
Helene Richard, Marieville, Quebec  
Kristy Moller, Whiterock, BC

日本でも早く大会が開けていろんな人達が脚光を浴びれる環境がきたら良いと思います。JKBAさん頑張ってください。今の日本の状況は多分1年くらいアメリカから遅れていると思います。このスポーツがもっと社会的に認知されるには時間がかかるとは思いますが、今kiteをやっている一人一人の心がけが例えば安全にkiteを指導し他の人に迷惑を掛けないなどスノーボードのようにグレンデから締め出しを食らった過去のような事が起こらないようにしていかなければならないかと常々思っています。風の弱いガスティーな時はニュートラルで落ちることさないよう十分気をつけましょう！！

赤土 正剛(あかどせいご)

1952年2月9日生まれみずがめ座のO型  
身長186cm 体重95kg  
元ウインドサーフィンワールドカップ選手。  
現在もしぶとく国内プロサーキットに出場している。  
白峰温泉スノーボードスクール校長、日本スノーボード協会安全対策委員長kite歴1年。  
初めてkiteでジャンプしたら、以前マイ島でウインドの練習していたときにマストハの波で思いっきり飛んだよりも高く飛んで(多分高さ6mくらい) それ以来めちゃくちゃkiteにはまっている。

